

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490400175		
法人名	有限会社 介護サービス朋友		
事業所名	ほうゆう・和の家		
所在地	日田市上城内町4-12		
自己評価作成日	令和4年8月28日	評価結果市町村受理日	令和4年10月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/44/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=4490400175-00&PrefCd=44&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構
所在地	大分市上田町3丁目3番4-110号 チュリス古国府壱番館 1F
訪問調査日	令和4年9月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様本位を念頭に置き、随時業務内容を見直して、可能な限りその人らしさを尊重するようにしています。個別な関わりを基本にし、午前中は体操や運動の体力作りと、趣味や好きなことを自由にできるように支援しています。午後は集団でゲームや創作活動などのグループでの活動を勧め、他者との円滑な関わるを支援しています。お互いに助け合うことや認め合うことで、穏やかな集団生活が送れるように努めています。また外出ができず、閉鎖的な生活を余儀なくされていることで、事業所内での楽しみを増やしました。事業所での取り組みを自治会で回覧して頂き、地域に必要とされる事業所になれるように努めています。毎週のドリンクバーと月1回の喫茶店のオープン、おやつ作りの日、手作りご飯の日、誕生会など、入居者様の発語や笑顔、表情を引き出すことに、スタッフにも喜びを感じています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、1ユニット(定員9名)のグループホームと小規模多機能ホームが併設されており、デイサービスを利用する馴染みの知人との交流も楽しみとなっています。事業所周辺に公共施設(公民館・図書館・小学校等)があり利用者の中には、趣味を活かし公民館行事に参加する方もいましたが、今はコロナ禍により自粛しています。隣接する小学校での運動会の練習を、利用者が楽しそうに元気な子供達を眺めており、とても良い環境があります。また、外出や面会が出来ない現在、利用者の生活が閉鎖的にならないよう考え、職員の個性(アイデア)に富んだレクリエーションや行事・体操や清掃(モップ掛け)等利用者の出来ることを見守りと声掛けで行って頂き自立支援に繋げています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着の意義を盛り込んだ文言を追加した理念を毎朝唱和することで、意識を高め、実践に活かせるようにしている。	法人の理念を基本に、地域密着の意義「住み慣れた場所で～」を追加し、毎朝ホールで利用者とともに唱和し、共有と実践に繋がっています。特に日々の中での会話やレクリエーション等、常に理念を意識しサービスを実施しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染予防対策もあり、ほとんど交流はできていないが、地区の回覧板で活動を報告したり、交流室の窓から、掲示物などでメッセージや活動を発信している。	コロナ禍により、例年通りの交流は減少していますがその中で出来ることを考え、地域交流を行っています。自治会の協力により年3～4回「和の家便り」を回覧にて発信し、事業所の近況報告とともに認知症についての啓発活動にもなっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	スタッフ全員が認知症サポーターであり、研修などで知識や対応などを学んでおり、地域の回覧板で、解りやすく認知症についての記事を掲載している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	通常は2か月ごとに会議を行い、事業所での取り組みや利用状況を報告し、地域での高齢者の暮らしや公民館活動など、多方面で話し合いを行っている。数回感染予防対策で、文書での開催を余儀なくされた。	2ヶ月毎に、行政職員・民生委員・自治会役員・家族・職員を交えて開催していましたが、現在は書面会議となっています。行事報告・利用状況報告・ヒヤリハットの取り組み等を書面にて報告しています。メンバーからの意見を電話で頂き、サービス向上に活かしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や、市役所の窓口での報告や相談において、意見や助言を頂き協力関係は築けている。	市とは、不明点等が生じた際には担当者と連絡を取り合い、助言や相談に乗って頂いたり、市の講習会や連絡協議会に参加し、介護保険事業者として把握すべき情報収集に努めています。また、市の会議室を借りて連絡協議会を開く等市との協力関係を築いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアの実践する為、ミーティングで確認を行い理解を深めている。所在確認や見守り強化してスタッフ全員で取り組んでいる。	身体拘束廃止・虐待防止に関して年間研修計画の中で取り組んでおり、毎月のミーティング等で身体拘束に該当する行為や対応を学び、身体拘束における概念の共通認識を図ることで拘束のないケアに取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修を行い、毎月のミーティングで虐待行為に当てはまる行為がないか振り返り、確認作業を行っている。職員一人ひとりが気を付けて虐待予防に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要性のある方がおられ、利用できるように調整中で、関連機関との連携を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は料金の説明や苦情申し立て、解約条件、入院時の待機期間などに重点をおいて説明している。希望により看取りについても説明も行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族からのご意見は、全体で捉えて検討し、改善するように努めている。投書箱の確認も行っている。	コロナ禍により、家族と直接話を聞く機会はなかなか持てませんが電話やメール・お手紙等で、利用者の近況報告と併せて意見を伺うようにしています。社会情勢を考慮しながら面会や運営推進会議も再開できるよう考えています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表は主任や管理者を経て出された提案や要望を聞き、検討して可能な案件は反映されている。重度の方の安全で快適な入浴を提供するため、ストレッチャーでの入浴を導入した。	管理者は、日頃から現場の業務に当たり、職員と話す機会を設け、申し送りノートやミーティングの時に意見や提案を聞き意見交換をした後、業務や運営に反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表は就業において、希望に応じスタッフ個人と面談をする機会をつくり、労働条件の説明と合意に努め、職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	可能な限り個々のスキルアップの為、研修参加の希望を考慮し受講の機会を作りたいが、感染予防対策の為、研修の機会が少なかった。行事などの起案や実践など自発的に行動できるように指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ過で交流は減っているが、感染対策を行いながら定例会での情報共有や、少人数での研修を行っている。社会福祉施設へのリサイクル活動(牛乳パック)への協力をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始時に情報を収集して本人とご家族の不安や要望を聞き、表情などを観察しながら声掛けを多くするようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の困っていることや不安なこと、要望を十分聞き取り、ご家族を労う気持ちをもって接し、今後も入居後も協力しあえるように信頼関係を築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	心身の状態を把握し、優先すべきサービスから提案し、提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	これまでの経験や持たれている機能を発揮して掃除や料理など出来ることをお手伝い頂き、支えあえる関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人とご家族の関係性を理解し、良好な関係が継続できるように支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話や郵便物のやり取りの支援や、面会制限のない時には、交流のある方との面会で、関係が継続出来るように努めている。	面会が困難な今、家族の協力を得て電話・手紙やハガキ・宅急便で送り合う等、いま出来ることを工夫し支援を行っています。また、利用者との会話の中にも生活歴を参考に、馴染みの関係継続に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士の関わりを観察して、公共スペースや居室での交流を見守りながら支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されても、その後の様子伺いや、事業所の外でも、気軽に声掛けができる関係性を築けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションを取りながら、ご本人との会話の中での思いや意向、要望を把握し、ミーティングにおいてスタッフ全員で検討し共有して可能な限り実現に努めている。	家族に過去の生活歴・趣味や嗜好品・暮らし方の希望を聞き取り、アセスメントシートを作成するとともに、介護計画に反映させています。また、日々の関わりの中で本人が発する言葉や身体的なサインを見落とさないよう観察し記録に残し、職員で共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	記録や日々の関わりの中で、情報を集めている。また個々に暮らし方シートを作成してスタッフ全員が把握できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の利用者様とのかかわりの中で、状態を観察し、その日の体調や気分、身体機能の状態に応じた生活が送れるように支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングやカンファレンスでは、担当以外の他職種も意見を出し合い、現状や課題の確認を行っており、介護計画にはその意見も反映されている。	4ヶ月毎のカンファレンスや6か月毎の見直し、また、介護度更新月、その都度の利用者の状況の変化に応じ、職員の気付きを参考に介護計画を作成しています。課題やケアの方針について話し合い、現状に即した介護計画となっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	スタッフ全員で日々の状態の記録を共有し、サービスの実践や介護計画に変更などにも活かされている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人が生まれ、それに対してご家族が対応できない事にも可能な限り柔軟に対応するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ過であり、地域資源の活用や協働は困難だが、活用できる資源がないか、意識するように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望を確認してかかりつけ医との関係を大切に、適切な医療が受けられるようにしている。また必要に応じて専門への受診ができるように支援している。	ケアマネージャーによるケアプラン作成時、利用者の希望を出来るだけ聞き、家族同席の上で話し合い、家族によるかかりつけ医への受診を基本としていますが、必要に応じて事業所職員が適切な支援を行っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者に心身の変化があれば、職場内看護師や訪問看護師に相談や報告して、適切に処置や受診が受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は医療機関と十分な情報交換を行い速やかに治療が行われるように努め、また退院時もカンファレンスなどで治療経過などの説明を受け退院後のケアについてもアドバイスを頂ける関係性を保っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の看取り介護について、必要な時期にご家族とカンファレンスを行い、事業所が出来る対応を説明して話し合いを重ね、その都度柔軟に決めている。	終末期を迎えた時は、在宅医の協力を得て、医療的なことを優先して支援しています。看取りについては、本人・家族・職員の精神的な負担を軽減するため、一人ひとり違うという事でその都度個別に対応しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修で確認は行っているが、スタッフのスキルや経験等も違い、すべての職員が十分な実践力があるとは言えない。連絡体制は整えているが、定期的な訓練は行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練をおこなったり、水害火災時の施設内研修で、断水や停電の机上訓練は行っている。また行政から配布された防災ラジオを設置している。地域での協力体制は十分でない。	災害時の訓練は、消火訓練・避難訓練・通報訓練を災害時の対応マニュアルに沿って行っています。備品・オムツの数量・使い捨て食器の取り扱いなど具体的な行動による訓練を、あらゆる場面に対処できるよう話し合いを重ねています。	近隣住民や学校の生徒などに、事業所からの発信を受け入れてもらいたいとの職員の思いを、これからも続けることによって、より地域との協力関係を培うことが出来ると思います。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人の人格やプライバシーを損ねない対応を心掛け、価値観を否定するような言動や態度がないようにしている。	席替えの希望や強い口調での要望などを発する利用者がいますが、スピーチロックはしない事とヒヤリハットの記入は些細なことでもノートに記載し、利用者の尊厳を守れるよう全職員で情報を共有しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりで、本人の思いや希望を把握して自己決定を尊重できる支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人の生活ペースに添って、個別にケアを行いながら、その人らしさを支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お顔の手入れや爪の手入れなどの身だしなみと、希望により化粧やマニキュアなどのおしゃれを楽しめ、気持ちが明るく保てるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を取り入れ、野菜を切ったり、混ぜたり、料理レクやおやつレクをスタッフと一緒に行うことで、楽しみを生む支援が出来る。	配食での栄養管理や、利用者の必要に応じてゼリー食・ソフト食・ミキサー食を供することが出来ています。たまには季節のお菓子をみんなで作ったり、職員持参の家庭菜園の野菜で料理レクを楽しんでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量を記録して、体重の推移や栄養状態に応じ高カロリーの捕食を行い、好きな飲み物で水分補給に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行い、歯の状態を確認し、定期的に歯ブラシの消毒や交換も行っている。またデンタルチャートの作成で手入れや支援方法などがわかるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表から排泄パターンを把握して、失敗を減らす事を職員間で意識し、その人に合った排泄方法での支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分量を把握し、歩行訓練や音楽に合わせたストレッチ等の運動を勧め、必要に応じて看護師の腹部マッサージや緩下剤を用いて排便管理を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日や回数は設定しているが、本人の希望により、その日の体調や気分を考慮し柔軟に対応している。	重度の利用者の為に、ストレッチャーを導入したことにより安全に入浴を楽しんで頂いています。掃除が大変なこともありますが、清潔保持のためシャワー浴のみを希望する利用者や、湯船で入浴を希望する利用者を支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	毎週のシーツ交換や掃除などで環境を整え、居室の温度管理や照明などで、夜間の良眠や日中の休息などの支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は看護師の管理のもと、服薬の間違いないように、スタッフ間でダブルチェックを行っている。また、内容の変更などは常に、申し送りやチェック表などを確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好きなことや得意なことを個別なケアに取り入れ、ドリンクバーや手作りでおやつや食事を作るなど、役割や楽しみがもて、気分転換が出来るようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染予防を十分行いながら、花見や高塚参拝には出かけたが、感染者数の増加に伴い、天気の良い日の外気浴や散歩など季節や景色を感じて頂けるように対応した。	利用者の思いを出来るだけ汲み取り、神社や地元の行事への参加を安全面に配慮しながら行っていましたが、コロナ禍のため以前のように気軽に外出出来ないため、室内から外部に向かって習字や季節の折り紙などを窓辺に飾り、繋がりを楽しんでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が出来る方は所持されており、事業所で預かっている方は、移動販売車やカット代、外出時の買い物で支払いの支援をお行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話のやり取りや、手紙、宅配物などのやり取りもあり、その支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、室温や湿度、換気にも気を配り、安全で快適に過ごして頂けるようにしている。また季節感のある貼り絵や花、作品なども掲示している。	利用者の個別ケアを支援する中で、レクリエーション等で得意なこと、昔から楽しみにしていることを自由に発揮できるよう配慮しています。ホールや玄関等に四季折々の作品が飾られ、職員や利用者同士の話題にもなっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者間の関わりを観察し、デイルームでの席の配置に気を配り、ソファなどで思い思いに過ごして頂けるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた物や、思い出のある物、ご家族写真などを掲示して、安らげる空間作りをしている。	プライベート空間である居室に、自分の好みものを置いてそれぞれの思い出を大切に、家族などを忘れてほしくないとの思いから写真や品物に配慮しながら、心地よいプライベート空間に出来るよう支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレの場所がわかりやすいように、目印や、希望により名前を表記して、間違っして入室しないように工夫している。トイレも使いやすい場所を選び、必要物品もそろえて対応している。		